

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度 (詳細は別紙参照)	<p>西部地域(ホブド県ならびに近隣4県)の医療体制の充実と患者救済</p> <p>旧式の手術・麻酔機器を使用していた状況の改善のため日本から医療機材、薬剤を贈与して使用法の教示を行った。</p> <p>配備した備品:手術台、全身麻酔器、吸引器、高周波手術装置(電気メス)、口腔手術用万能開口器</p> <p>手術室の改修工事、言語訓練センターを新たに設置し、手術室環境、言語訓練を遠隔で実施できるようにした。</p> <p>病院全体のインフラ整備の更新工事と重なり、手術室の改修ならびに大型機器の贈与が第一次派遣には間に合わなかったが、8月に贈呈式を行い、麻酔器についての使用法説明を行った。完成した手術室は従来のモンゴルのそれと比べ、完成度が高く、安定して使用することが可能となった。今後高度な手術への対応が可能となると期待される。</p> <p>患者の救済としては 未治療の患者の診察、ならびに無償手術を施し、症例検討や手術への介助により、現地医療関係者への技術移転を進めた。</p> <p>治療した患者数: 第一次派遣 21名治療 13名手術 第二次派遣 15名治療 4名手術</p> <p>公衆衛生指導による口腔内の衛生状態の改善と感染症の予防</p> <p>直接講習会に参加した聴衆は約60名である。講習会には、新たにモンゴル語で作成した感染症予防パンフレットならびに口唇口蓋裂治療のパンフレットを作成・配布した。翻訳は当協会コーディネータと母子病院の専門家の協力でなされた。同時に配布した歯ブラシを用いて聴衆に講演。医療関係者の評判もよく、日本人専門家帰国後も随時、啓蒙活動をするため、冊子の増刷等と行った。確実に口腔感染症予防への認識が深まっていると感じた。一定の成果があがっている。</p> <p>対象医療分野: 口腔疾患 特に口腔障害児への手術治療法等技術移転中心</p>
(2) 事業内容 (一部補足説明参照)	<p>手術室、言語訓練センターともに、工事が終了し、日本から贈与された機器が設置された。贈呈式を8月に行い。モンゴル側に引き渡された。言語訓練センターには遠隔言語訓練用にi-Padを設置し、必要に応じてウランバートルの健康科学大学、母子病院からも治療を受けることを可能にした。</p> <p>寄贈した大型機器(手術台、麻酔器、電気メス等)は船便で5月27日ウランバートルに到着。若干の留め置き期間はあったものの、免税手続きを経て、6月14日にホブド県病院に搬入された。この業務のため、ホブド病院の副院長がウランバートルに</p>

来て対応、運送業務手配などを当協会コーディネータ、オコン氏とともにいった。手術室改修工事につき、8月まで設置が延期された。

消耗品等当初2回に分けて購入を申請していた物品は薬剤を除き、2回分を計画的に発注、航空便手荷物扱いで搬入した。ミアット航空の好意により、30%offの料金で対応していただいた。この費用は機材運搬費として計上している。第二次では使用法を中心にこれらの機器を使い、患者への治療、手術と実施した。

現地医療者へのウランバートルにおける事前研修は第一次派遣で、3日間行われた。ホブドからは口腔外科医1名が参加した。ウランバートルの専門家も同席することで今後のウランバートルの専門家がホブドでの指導に従事するにあたり、効果が発揮されるものと考えた。ホブドの口腔外科医はその後ウランバートルの母子病院で研修を定期的に受け、日本人専門家が不在の間も技術向上を継続した。

ホブド県では手術前診断、手術への立ち会い、介助を通して口腔外科医への技術移転は順調に進んでいる。(別紙)
口唇裂一次手術に関する技術指導を重点とし、それ以外の高度な手術に関しては見学の形で、口腔外科医、手術室看護師(日本での介助医相当)、麻酔医、看護師のチーム治療の現地体験を通して治療への意欲喚起を目指した。手術数欄その他の手術は第一次の技術指導には高度であるが、技量のある日本人医師団による治療を現地病院からの要望に応える形で実施した。

口唇形成術、口蓋形成術に対して一定の水準が得られたものの、単独での執刀にはもう少し経験が必要である。第二次では顎骨腫瘍に対する手術指導も行って、手術の時期や術式の判断基準についても指導を行った。その後も定期的にウランバートル母子病院で研修を受けている。(6月、9月に日本人専門家に同行、ならびに8月にウランバートル専門家のリーダーとしてホブド入りした口腔外科医が指導)

口腔感染症予防のパンフレットならびに口唇口蓋裂治療のパンフレットをモンゴルに合わせて作成し直し、翻訳は、当協会コーディネータとモンゴル母子病院の専門家の協力で作成。それぞれ200部印刷して持参した。同時に配布した歯ブラシを用いて入院患者の家族を中心とした聴衆に講演を行った。第一次には患者家族ならびに医療関係者に向けて、第二次は医療関係者に向けて公衆衛生感染予防活動として、口腔感染症ならびに口腔ケアについて、講習会を実施した。医療関係者の評判もよく、今後独自に活用したいと申し出があり、冊子ならびに歯ブラシ、ボールペンセットを託してきた。医療専門家向けには「口唇口

	<p>蓋裂の理解のために「(モンゴル語番)を30冊追加で寄贈し、ホブド病院に配置し、パラメディカルへの啓蒙に役立てた。本資料を使って、8月にはUBの専門家が講義を行った。</p> <p>8月にUBの専門家がホブドを訪問する際、患者親の会の責任者が同行し、ホブドに支部を立ち上げ、今後の患者支援の強化を図る足掛かりとした。言語訓練等 成人になるまで必要な一貫治療の情報提供にも役立つ。</p>
(3) 達成された効果	<p>手術室・言語訓練センターの改修工事をし、口腔疾患治療に必要な機材の導入と使用法の教示により、医療環境の整備が進んだ。医療関係者の意識、技術の向上が期待できる。(詳細 別紙)</p> <p>未治療、未手術のままの患者36名の治療と17名の手術を行い、疾患からの解放が可能となった。精神面のサポートも行い、口腔衛生管理を充実させることで、感染症を予防し、生活レベルの向上も期待される。第一次13名、第二次4名の患者手術ということは 確実に当地における未手術患者の減少に貢献した。</p> <p>全身麻酔手術の安全性が飛躍的に改善され、口腔疾患手術のほか外科、小児科での手術にも対応できるようになった。</p> <p>口腔衛生についての講習会の聴衆者数は 入院患者家族や、医療関係者など合計60名ほどではあったが、意識や感心の高い人への講習となり、口腔衛生についての正しい知識と予防法を伝授することができた。臨床や診療の際に現地医師から感染症の予防を広めるため、パンフレットを増刷し、対応した。裨益者数は当初220名と予測したが パンフレットはすでに400部を配置もしくは配布した。</p>
(4) 持続発展性	<p>手術室整備、言語訓練室の整備に関しては、工事終了後 口腔外科医領域に限定せずに使用が開始された。手術室に設置された手術台、麻酔器等大型の機材に関しても 8月に設置後順次手術に利用されている。</p> <p>当協会とのMOU (Memorandum of Understanding) の取り交わり、現地病院側の修理費負担を明記し、機材・器具の貸し出し等の管理体制についても担保した。故障時対応についてもMOUに付記して責任の所在を明らかにしたうえで、日本側技術者も相談にのることとした。</p> <p>患者へのケア、手術計画などについては適宜メール、ファックスなどを通じて助言をする体制が確立されている。</p>

	<p>口唇口蓋裂手術の技術移転は単年度での完了は困難で、定期的に訪問、評価をし、新たな指導を積み重ねることで完了する。当協会は毎年、モンゴル国へ日本人専門家を派遣し、各地で手術を実施している。ホブド県の医師をウランバートルやその他の地域での手術に同行させ、継続して手術手技や一貫治療の指導を行う</p>
--	---